



済生会
だより

ならしの

千葉県済生会習志野病院 院外広報誌

No.22 2012.春号



Contents

- 呼吸器科の紹介
- 外来化学療法室の紹介
- 救急病棟オーブン
- 糖尿病講座のご案内

今号の表紙

さくらと病院建物
撮影：広報課



いのちに寄り添い100年

病院の理念

患者さんの権利を尊重し、共に考える良質な医療の提供、すなわち患者さん指向の医療をめざし、もって地域住民の健康と福祉の増進に努めます。

病院の基本方針

- ・職員が誇りを持ち、患者さんが満足・安心できる効率的な医療の提供に努めます。
- ・すべての診療情報を患者さんにお伝えします。
- ・信頼される医療を行うために研修、研鑽をいたします。
- ・地域の医療機関との連携のもとに中核病院としての役割を果たします。

呼吸器科の紹介

呼吸器科 医長 黒田 文伸

当院における呼吸器科の開設について

2012年4月1日に千葉大学呼吸器内科から当院に常勤医4名で赴任し、呼吸器科を開設して外来・入院診療を開始いたしました。全国的に呼吸器科の医師数は少ないとされており、2011年における3大内科の専門医数をみても、消化器専門医17,105人、循環器専門医12,166人に対し、呼吸器専門医は4,595人という状況です。千葉県内でも呼吸器科の引き上げがおこなわれた基幹病院は少なくありません。私が当院で当科を開設する決断をした理由はいろいろありますが、私が大学から当院に非常勤勤務をしていた際に、当地区での呼吸器科の必要性を痛感した事、当院の多くの先生から熱心に呼吸器科誘致のお話をいただいた事、当院のスタッフの方々が熱心にかつ患者に親身に仕事をされていた事が主な理由です。当科の開設にあたり、私に縁のある優秀な3人の医師が私と共に赴任してくれました。篠原昌夫先生は研修医時代に私が病棟指導医であった間柄で、患者さん思いで周囲との調和を保てる医師です。山内圭太先生と露崎淳一先生は大学院生時代に私が教官であった間柄です。山内先生は洞察力に優れ判断力の高い医師です。露崎先生は細やかな配慮ができる視野の広さを持った医師です。当院呼吸器科を地域の基幹病院として機能させていきたいと思っております。皆様、何卒よろしくお願い申し上げます。

呼吸器科について

肺は呼吸という生命活動に欠かすことのできない機能を営んでいますが、その機能のためにテニスコート一面分と各臓器の中で最も広く外気と接してその影響を受けるため、弱い臓器とされています。呼吸器の疾患は多種多彩であるのが特徴で、他臓器に関連してくる病態も多く存在します。当院当科でおこなっている検査と診療する疾患を以下にお示しします。

● 検査

気管支鏡検査



直径4~6mmのファイバースコープを用いて、肺や気管の病変に対して経気管的に細胞や組織を採取し診断をおこないます。止血や吸痰、気道の確保・確認などの目的でおこなう事もあります。苦痛の少ないように局所麻酔と鎮静剤を使用しておこなっています。

超音波気管支鏡検査



近年開発された先端に超音波プローブが装着されたファイバースコープを用いて、気管周囲のリンパ節や腫瘍性病変に対して超音波下で部位を確認しながら穿刺吸引細胞診・生検をおこない、確定診断をおこないます。

CTガイド下肺穿刺生検



肺末梢の病変をCTで位置を確認しながら胸郭から経皮的に穿刺をおこない、生検・診断をおこないます。経気管的なアプローチより診断率は高くなりますが、気胸を比較的高率に発生するため、主に気管支鏡検査で診断のつかなかった場合に用いられます。

胸腔鏡検査



胸水が貯留する病態に対し、肋間にポートを留置し胸腔内を観察し、生検や細菌学的検査をおこない原因疾患の診断をします。通常の胸膜生検より診断率が高い事が近年報告されています。気胸にみられる囊胞にフィブリリン製剤を噴霧するなど処置をおこなうこともあります。

● 疾患

当科で診療する疾患は、胸部腫瘍性疾患(肺癌、縦隔腫瘍)、胸膜疾患(気胸、胸膜炎、胸膜中皮腫)、間質性肺疾患(特発性間質性肺炎、サルコイドーシス)、アレルギー性肺疾患(気管支喘息、過敏性肺炎、好酸球性肺炎)、気道閉塞性疾患(COPD-肺気腫、びまん性汎細気管支炎)、肺循環疾患(急性肺塞栓症、慢性血栓塞栓性肺高血圧症)、感染性肺疾患(肺炎、肺真菌症、肺結核、肺非結核性抗酸菌症)、呼吸調節障害(睡眠時無呼吸症候群、原発性肺胞低換気)などです。その中で代表的なものを下にお示しします。

肺癌



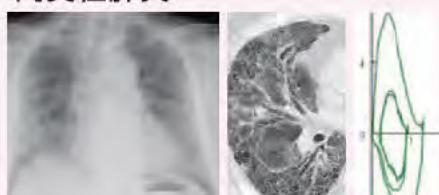
我が国の死亡原因の1位は悪性腫瘍であり、3人にひとりが悪性腫瘍で死亡しているのが現状ですが、その中で最も多いのが肺癌です。当科では、近年標準治療となった限局型小細胞肺癌及びⅢ期非小細胞肺癌に対する放射線化学療法の同時併用療法もおこなっています。また遺伝子診断を活用して分子標的治療も積極的におこなっています。

COPD(慢性閉塞性肺疾患)



喫煙者の15%程度に発症します。肺機能検査で1秒率が70%未満を示し、主には肺気腫です。症状は階段昇降時など労作時の息切れが主です。肺が、弾力が低下して伸びきったゴム風船のようになります。過膨張と気流制限を呈します。近年、我が国でおこなわれた調査からは潜在的な患者も含めると患者数は530万人に及ぶと推定されています。

間質性肺炎



肺の間質(主に支持組織)に慢性的な炎症が続くことにより、肺が硬くなる病気です。肺が縮んで膨らまなくなります。労作時の息切れや乾性咳嗽が主な症状です。特発性間質性肺炎の概念や分類は約半世紀にわたって変遷してきた経緯がありますが、現在では、米国胸部疾患学会・欧州呼吸器学会の合同委員会による国際分類で7型に分類されています。

気胸



肺の表面に穴があいて空気が胸腔に漏れ出ているパンクのような状態です。若年者と高齢者にピークがあります。若年者では肺尖部にプラやブレブと呼ばれる膨れた餅の薄皮一枚の部分のような囊胞が多くみられ、高齢者では基礎疾患が多くみられます。軽度のものは安静で軽快しますが、中等度以上の場合はまず胸腔ドレナージをおこなう必要があります。

肺炎



病原微生物(主に細菌)による肺の感染性疾患です。複数の抗菌薬が使用可能な現在でも我が国の死因の第4位にある疾患です。近年では、薬剤耐性菌の増加、多剤耐性菌の出現、グラム陰性菌に対する新規抗菌薬開発の停滞などが問題・話題に挙げられています。

外来化学療法室の紹介

外来師長 小島 智子

当院では、平成19年1月に通院でより快適に・安全に抗がん剤治療が受けられるよう外来化学療法室を開設しました。抗がん剤治療は入院治療が主流でしたが、新しい有効な抗がん剤の開発や副作用対策の進歩により、安心して外来で化学療法が受けられるようになりました。外来でおこなうことで、患者さんが仕事や家事をしながら治療を継続でき、経済面での負担を少なくし、安心して治療を受けていただけます。



(外来化学療法室のスタッフ)

平成23年11月より、旧[27]健診センター跡に移転をし、ベッドを9床から20床に増床しました。また、外科・消化器内科・婦人科・血液内科の化学療法に加えて、リウマチ科のレミケード療法などの抗体療法の受け入れを始めました。外来化学療法室では、リラックスして治療を受けていただけるようにBGMが流れ、読書や食事もできるなど環境を整えています。また、専任のスタッフを配置し、患者さんの治療に関する相談にも応じております。

救急病棟オープン



(救急病棟のスタッフ)

3月1日より救急病棟として3階中病棟をオープンいたしました。 救急病棟では産科を除く、救急患者さんの緊急入院の受け入れをおこないます。特に夜間緊急で入院される患者さんは該当診療科の病棟ではなく、救急病棟で入院を受け入れいたします。救急病棟では全ての診療科の疾患に対応し、患者さんのあらゆる健康レベルに対応し、安全で安心な療養環境を提供いたします。当院では救急患者さんの受け入れの充実を図ってまいります。

糖尿病講座のご案内

当院では、2ヶ月に1回糖尿病講座を開催しています。 参加費は無料ですので、是非ご参加ください。 なお、参加人数に制限がありますので、事前に予約をお願いいたします。

お申し込み・お問い合わせは、
内科外来まで

5月の講座

日 時 5月25日(金) 14:00~16:00
場 所 当院8階講堂
テ マ 糖尿病性神経障害
 神経障害と薬剤について
 食事療法入門(栄養素の話)
 日常生活の注意点
 (フットケア・低血糖・シックデイルール)

お知らせ

「済生会だより ならしの」が
No11(2009年夏号)より病院ホームページからご覧になれます。

発 行／千葉県済生会習志野病院

〒275-8580 千葉県習志野市泉町1-1-1 TEL 047-473-1281 (代) FAX 047-478-6601
ホームページ <http://www.chiba-saiseikai.com>